

基礎教養科目群

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
PHR-O-L-2	信愛教育 I	阿久根政子	1	講義	全科	通年 (前期)	必修
授業の概要と キーワード	聖書や入門書等を用いて、建学の精神の基礎であるキリストの教えを学び、豊かな精神生活と人格向上を図るために、祈り、聖歌練習、ミサなどの宗教行事を通して、「こころの教育」をめざす。 【建学の精神、キリストの教え、人格向上、宗教行事、こころの教育】						
実務経験と 教授内容	修道生活での実務体験を生かし、聖書を通してキリストの教えを講義し、キリスト教的価値観とその生き方を体得する。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知識、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 態度・志向	キリスト教的価値観に基づいた愛の実践を身に付ける。						
○ 知識・理解	聖書を通して、基本的なキリストの教えを理解する。						
△ 態度・志向	一人ひとりを大切にできる女性としての使命感を身につける。						
△ 態度・志向	周りの人々と良好な人間関係を構築するための行動ができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 50分					
1	オリエンテーション 毎日の祈りについて	8	聖母祭ミサのための 聖歌練習・聖母マリアについて				
2	祈りについて (1)「主の祈り」	9	聖母祭ミサ 参加記録・感想ノート提出				
3	祈りについて (2)「アベマリアの祈り」	10	聖書について 旧約聖書・新約聖書				
4	祈りについて (3)その他、いろいろな祈り、まとめ	11	聖書の物語に学ぶ (旧約聖書) (1) 天地創造 (創世記第1章)				
5	建学の精神について (1) 創立者のこころ	12	(2) 人間の創造 (創世記第2章～第3章) 神の似姿としての人間・アダムとエバ				
6	建学の精神について (2) モットー「一つの心、一つの魂」	13	(3) まとめ (創世記第1章～第3章) グループ・ワーク (まとめのノート提出)				
7	ミサについて ミサについての説明と心の準備	14	特別講話 (1) 「いのちの話」 (レポート提出)				

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
PHR-O-L-2	信愛教育 I	阿久根政子	1	講義	全科	通年 (後期)	必修
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容					各回	50分
15	学長講話 スール スタニスラスの精神	22					救いの道への準備 予言者イザヤを通して (イザヤ書)
16	クラスミサ準備 聖歌練習と役割	23					旧約から新約の世界 闇の時代から光の時代へ
17	クラスミサ 感想文ノート提出	24					クリスマスの意味を学ぶ ルカ福音書2章から
18	いのちの尊さ について (1) 人間の尊厳・キリスト教的人間観	25					クリスマスミサへの準備 待降節について 聖歌練習
19	いのちの尊さ について (2) 死	26					クリスマスミサへの参加 感想文ノート提出
20	追悼祭ミサへの準備 聖歌練習・役割	27					特別講話 (2)「私たちの学生生活を支えてくださる方々」
21	追悼祭ミサへの参加 感想文ノート提出	28					課題レポート作成・提出
評 価 方 法 と 基 準	評 価 方 法	領 域	評 価 の 観 点				割 合
	課 題	知識・理解 態度・志向	(レポート課題) 授業のテーマ・内容等の事柄について理解しているか (ノート) 授業の項目に関して理解しようと努力しているか				30% 50%
	平 常 点	態度・志向	授業等、積極的に参加し、学ぼうとする姿勢が身についているか				10%
	そ の 他	態度・志向	行事等で皆と協力して行動できているか				10%
教 科 書	『聖書 旧約続編つき』(新共同訳) 『聖書入門』						
参 考 書	『賛美の歌』 (ミサ、朝礼時に使用)						
課題・試験等の フィードバック	次回の授業までにコメントを記入して返却する						
予習・復習の 内容と時間	前回の内容を復習し、予習として、次回の授業範囲のテキストを読んでおくこと 30分						
免 許 ・ 資 格	保育士資格必修科目、認定ベビーシッター資格必修科目、 栄養士免許必修科目						
受 講 要 件 等	毎回「聖書」を持参すること						
オフィスアワー等	授業終了後、教室で質問等を受ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
PSY-1-L-1	心理学入門	深谷 薫	2	講義	生文	前期	選択
授業の概要とキーワード	人格形成上、青年期に必要な「自我同一性の確立」の課題を意識しながら、「こころ」について理解することが大切である。心理学的な視点より「こころ」の基礎を学び、自己を見つめなおし、より豊かなこころを持って社会に適応できる女性としての知識や技術を修得する。【こころ、発達、リラクゼーション】						
実務経験と教授内容	乳幼児期から成人期までの幅広い方々を対象に相談業務をこなすフリーの臨床心理士です。そのライフサイクルを通しての臨床や学識を基にして、生活で役に立つ心理学入門を教授する。			アクティブラーニング	グループワーク ディスカッション		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知識、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	自己理解を深めた上で、他者も理解し、よりよい対人関係を築くことができる。						
○ 知識・理解	心理学の知識を得、自己や他者を理解し分析できる。						
△ 思考・判断	自己を客観的に理解し、自己の問題について主体的に考えることができる。						
△ 態度・志向	社会の中で生きている自己を意識し、集団の中でとるべき姿勢を身につける。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	オリエンテーション			8	愛着関係		
2	「わたし」について考える① ー私がここにいる意味について自己洞察するー			9	発達障害		
3	「わたし」について考える② ー私がここにいる意味についての理由に気付くー			10	トラウマとトラウマケア		
4	ライフストーリーワーク			11	投影法 ①風景画構成法		
5	こころの発達 ー乳児期・幼児期ー			12	投影法 ②コラージュ		
6	こころの発達 ー学童期・思春期ー			13	リラクゼーション法 ①動作法 漸進筋弛緩法		
7	こころの発達 ー青年期・成熟期ー			14	リラクゼーション法 ②呼吸法 包み込み TFT		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現 知識・理解	自己について心理学的な観点から洞察できているか 自己を理解し社会適応しやすい方法を見出せているか				50% 30%
	小テスト	思考・判断	学んだことに対して、適切な考察が述べられるか				10%
	平常点	態度・志向	積極的に学び意欲的に参加する姿が身につけているか				10%
教科書	教科書は使用せず、資料プリントを配布する。						
参考書	佐々木正美 著「エリクソンとの散歩」 子育て協会 畠中 義久 編「社会的養護内容総論 その理論と実際」同文書院						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題への多角的な方向性による見解などを、コメントする。 特徴的な内容については、解説する。						
予習・復習の内容と時間	授業終了時に示す事項を、次回までに考えておくこと 120分 授業内容を振り返りノートを見直しておくこと 120分						
免許・資格	秘書士・上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書)・情報処理士・上級情報処理士選択必修科目 社会福祉主事任用資格 選択必修						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HES-5-L-2	保健体育実技	今西香寿	1	実技	保育	通年 (前期)	選択
授業の概要と キーワード	健康でありたいと願うのは、人間の永遠のテーマである。そこで、心身の発達と健康の保持増進について理解を深め、自分自身のからだの動かし方を知り、年齢と発達に応じた運動の種類や方法を学び、実践する。【健康・運動・心と体】						
実務経験と 教授内容	子どもから高齢者までを対象にレクリエーションスポーツの指導経験がある者が生涯スポーツについての実技授業を行う。			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP5】 社会人としての態度・志向性						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	態度・志向	生涯スポーツとは何かを理解し、運動を日常生活に取り入れる。					
○	態度・志向	仲間と協力する大切さを体得する。					
△	態度・志向	積極的に授業に取り組むことができる。					
△	態度・志向	コミュニケーションを取りながら運動を楽しむことができる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	アイスブレイキング 仲間のことを知る・緊張感をほぐし、仲間と楽しむ。		8	ソフトバレーボール① チーム分け			
2	コミュニケーションゲーム(1) 身体を動かしながら、仲間との絆を深める		9	ソフトバレーボール① 練習			
3	コミュニケーションゲーム(2) 偶然性のある活動		10	ソフトバレーボール② 実践練習			
4	コミュニケーションゲーム(3) チームで行うゲーム		11	ソフトバレーボール③ ゲーム			
5	レクリエーションゲーム(1) キャッチングザステイクの体験		12				
6	レクリエーションゲーム(2) ゴムを使って		13				
7	ソフトバレーボールとは(ルール理解)		14				

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HES-5-L-2	保健体育実技	今西香寿	1	実技	保育	通年 (後期)	選択
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
15	生涯スポーツ① バドミントン(ルールの理解)	22	ダンスエクササイズ① アイダアイダとは				
16	生涯スポーツ② バドミントン(チーム分け)	23	ダンスエクササイズ② アイダアイダ(1人で)				
17	生涯スポーツ③ バドミントン(基礎打ちの練習)	24	ダンスエクササイズ③ アイダアイダ(2人で)				
18	生涯スポーツ④ バドミントン (スマッシュの練習)	25					
19	生涯スポーツ⑤ バドミントン (実践練習)	26					
20	生涯スポーツ⑤ バドミントン (ゲーム)	27					
21	いろいろなものを使って体を動かす環境を作ろう	28					
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	態度・志向	本時の授業における活動のねらいを読み取ることができ、ノートを作成することができるか				60%
	平 常 点	態度・志向 態度・志向 態度・志向	チームプレイができているか 積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか 友達に自分の意見を伝えることができていますか				20% 10% 10%
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書	「基本のアイスブレイキング・ゲーム」公益財団法人日本レクリエーション協会						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解をコメントする。						
予習・復習の内容と時間	本時の授業内容のノートを作成する 30分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目・保育士資格必修科目・認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	水曜日の昼休み、研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HES-1-L-2 HES-3-L-2	保健体育実技	石川 裕子	1	実技	生文 食物	通年 (前期)	選択
授業の概要と キーワード	スポーツ活動を継続するためには、学童期から学生時代までのライフスタイルの中で、自分自身がどのようにスポーツと関わりを持つのが重要な鍵となる。本授業では、生涯スポーツとしてのスポーツ種目を実践することで、スポーツの親しみ方や楽しみ方を学び、卒業後も自らが豊かなスポーツライフを設計、実践できる能力を培うことを目標としている。【健康・身体・スポーツ】						
実務経験と 教授内容	中学校、高等学校での保健体育指導、またフィットネスクラブでのインストラクター経験を有する教員が、現場の実践事例を折り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	実技		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP5】社会人としての態度・志向性						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 態度・志向	主体的、積極的に運動に取り組むことができる。						
○ 態度・志向	生涯体育の意義を理解し、適切な技能を獲得できる。						
△ 態度・志向	理論と実体験をレポートにまとめる能力を身に付ける。						
△ 態度・志向	「動きの原理」を踏まえたうえで「動くことの楽しさ」を伝えることができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	オリエンテーション・体力測定 現在の自身の体力を把握する	8	バスケットボール② 応用練習・実践練習				
2	基礎体力作り① レクリエーションゲーム(フラフープ)	9	ソフトバレーボール① 基礎練習				
3	基礎体力作り② レクリエーションゲーム(ボール)	10	ソフトバレーボール② 応用練習・実践練習				
4	基礎体力作り③ レクリエーションゲーム(縄)	11	ヨガ 様々な身体の使い方・呼吸法を学ぶ				
5	バドミントン① 基礎練習	12					
6	バドミントン② 応用練習・実践練習	13					
7	バスケットボール① 基礎練習	14					

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HES-1-L-2 HES-3-L-2	保健体育実技	石川 裕子	1	実技	生文 食物	通年 (後期)	選択
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容	各回 100 分					
15	生涯体育に向けて① 学内体育大会の練習(個人種目)	22	生涯体育に向けて⑧ フィットネスダンス(ファンビート)				
16	生涯体育に向けて② 学内体育大会の練習(団体種目)	23	生涯体育に向けて⑨ フィットネスダンス(ハイインパクト)				
17	生涯体育に向けて③ 学内体育大会の練習(まとめ)	24	体力測定・まとめ 自身の体力の変化を知り、自己評価を行う				
18	生涯体育に向けて④ フィットネスダンス(イージー)	25					
19	生涯体育に向けて⑤ フィットネスダンス(ファースト)	26					
20	生涯体育に向けて⑥ フィットネスダンス(ソフト)	27					
21	生涯体育に向けて⑦ フィットネスダンス(ローインパクト)	28					
評 価 方 法 と 基 準	評 価 方 法	領 域	評 価 の 観 点				割 合
	平 常 点	態 度・志 向	積極的に学ぼうとする姿勢が身に付いているか				60%
	実 技	態 度・志 向	学習の理解・適切な技能の獲得ができているか				20%
	課 題	態 度・志 向	理論と実体験を統合し、レポートを作成できるか				10%
	そ の 他	態 度・志 向	理解を深め、適切な対応や判断ができるか				10%
教 科 書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参 考 書	「CPY METHOD」 本橋恵美著 株式会社ベースボール・マガジン社						
課題・試験等の フィードバック	毎回の授業終了後課題を提出し、次回返却する。						
予習・復習の 内容と時間	本時の授業内容を次回までに復習しておくこと(60分)						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	体育研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HES-5-L-2	保健体育講義	今西香寿	1	講義	保育	通年	選択
授業の概要とキーワード	<p>体を動かすことは生涯を通じてより健康な生活を送るために欠かせないものである。体の健康だけではなく、健康を保つためには、心も健康でなければならない。自身の健康管理に関心を持たせ、計画的に運動を実践する習慣づけ、ストレスの対処の必要性を理解する。</p> <p>【健康・運動の実践・習慣化・ストレス・心と体】</p>						
実務経験と教授内容	子どもから高齢者までを対象にレクリエーションスポーツの指導経験がある者が運動の必要性について講義を行う。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	心と体の健康について基礎的な知識を習得する。						
○ 態度・志向	自分の健康について意欲的に考える姿勢が身についている。						
△ 態度・志向	自分の健康を保つための運動を計画的に実践できる方法を身につける。						
△ 態度・志向	リーダーシップを発揮できる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	心の健康について-心の健康を保つためには			8			
2	生涯の各時期の健康観と体力について-各ステージにおける健康観、その時期に求められる体力			9			
3	体力とは 体力の構造について			10			
4	子どもにおける運動の意義 幼児期から青年期における運動の必要性について			11			
5	壮年期・中年期における健康課題について 健康づくりに対する課題やライフスタイルについて			12			
6	高齢期における健康課題について 健康づくりに対する課題やライフスタイルについて			13			
7	生涯健康的な生活を送るために 健康課題を解決する方法について			14			
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	心と体の健康について基礎的な知識を理解しているか				60%
	平常点	態度・志向	積極的に自分の健康について考えようとする姿勢が身についているか				20%
態度・志向		健康を保つための運動を計画的に実践できる方法が身についているか				10%	
態度・志向		人とコミュニケーションをとりながらグループワークを進めることができるか				10%	
教科書	適宜プリントを配布する						
参考書	「教養としての体育原理 新版」友添 秀則・岡出 美則編著 大修館書店						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、課題の中の特徴的な見解や誤解についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	予習:次回の授業に関する資料を配布するので、予習をすること 120分 本時の授業ノートを見直す 120分						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状必修科目・保育士資格必修科目・認定ベビーシッター資格必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	水曜日の昼休み、研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HES-1-L-1 HES-3-L-1	保健体育講義	石川 裕子	1	講義	生文 食物	通年	選択
授業の概要と キーワード	身体活動の必要性や健康の維持増進について理解し、生涯を通じて、健康的で豊かな社会生活を 実践できる素養を身に付けることを目標としている。【健康・身体・社会生活】						
実務経験と 教授内容	中学校、高等学校での保健体育指導、またフィットネスク ラブでのインストラクター経験を有する教員が、現場の実 践事例を折り込みながら授業を行う。			アクティブラーニング	調査学習		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的論理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	身体の仕組み(形態)と働き(運動機能)の関係を理解することができる。						
○ 態度・志向	健康のために役立つ知識を論理的に考えることができる。						
△ 態度・志向	健康を意識した規則正しい生活を送ることができる。						
△ 態度・志向	ルールを守り、自分の役割を果たすことができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	健康と体力 健康と体力の関係を学ぶ	8					
2	身体の仕組みと健康 身体の機能と構造について学ぶ	9					
3	脳とリズム リズム運動がもたらす効果について学ぶ	10					
4	スポーツと栄養① 運動と食事の関係について学ぶ	11					
5	スポーツと栄養② 減量・ボディーコントロールについて学ぶ	12					
6	応急手当① AED の使い方について学ぶ	13					
7	応急手当② 心肺蘇生法(CPR)について学ぶ	14					
評価方法と 基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	人体の機能や構造、応急手当について理解しているか				50%
	課 題	態度・志向	レポートにおいて、結果から論理的に考察を展開できるか				30%
	平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身に付いているか				20%
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書	「身につけよう 応急手当 応急手当普及員講習テキスト」東京法令出版株式会社						
課題・試験等の フィードバック	毎回の授業終了後課題を提出し、次回で返却する。						
予習・復習の 内容と時間	予習: 次回の課題について学習する(120分) 復習: 授業の内容を振り返り、まとめる(120分)						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	体育研究室へ直接						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
KJH-0-L-2	紀の国の歴史と文化	小山 譽城	2	講義	全科	後期	選択
授業の概要とキーワード	古代から現在までの歴史上重要な出来事や文化財を事例に挙げ、中央の歴史や文化とどのように関連するのか学習する。そのため、史料や文化財に基づいて史実を検証し、紀の国の歴史と文化について幅広い知識を理解する授業としたい。【歴史、文化財、市町村】						
実務経験と教授内容	高等学校や大学での授業経験、和歌山・海南・田辺市等の市町村史の編纂に携わった実務経験・成果を授業で活用する。			アクティブラーニング	該当なし		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	紀の国の歴史と文化について基本的な知識を理解できる。						
○ 思考・判断	歴史事象を論理的に考えるようになる。						
△ 態度・志向	学習意欲を高め、自ら学習する姿勢を持続する。						
△ 態度・志向	社会の一員としての自覚を持って行動することができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	「縄文・弥生時代の紀の国」 古代の紀の国について、県内の住居遺跡や古墳を中心に学習する。			8	「和歌山城の歴史」 豊臣秀吉が築いた和歌山城の歴史と城下町和歌山の発展について学習する。		
2	「古代の紀の国」 岩橋千塚古墳群や紀伊国分寺などについて学習する。			9	「宣教師が見た城下町和歌山」 宣教師ムニョスやソテロが称讃した和歌山について学習する。		
3	「高野山と町石道」 世界遺産の高野山とその参詣道(町石道)について学習する。			10	「徳川御三家紀州藩の成立」 なぜ紀の国に徳川家が置かれたのか、その理由について学習する。		
4	「熊野三山と熊野古道」 世界遺産の熊野三山とその参詣道(熊野古道)について学習する。			11	「紀州藩の政治」 江戸幕府と紀州藩の関係、徳川家の歴代藩主が行った政治について学習する。		
5	「源平の合戦と熊野水軍」 源平の合戦に活躍した熊野水軍や武士団湯浅党について学習する。			12	「江戸時代の紀の国の文化」 江戸時代の紀の国の文化について学習する。		
6	織田信長の紀州攻め 織田信長の紀州攻めと宣教師ルイス・フロイスについて学習する。			13	「幕末・維新期の政治と文化」 江戸時代後期と維新期の紀の国の政治と文化について学習する。		
7	「豊臣秀吉の紀州攻め」 豊臣秀吉の紀州攻めと宣教師ルイス・フロイスの書簡について学習する。			14	「近代の和歌山」 明治維新後の和歌山がどのようにして近代化されて行ったのかについて学習する。		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	紀の国の歴史と文化について理解しているか				60%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身に付いているか				20%
	小テスト	思考・判断	理解した知識を論理的に表現できるか				20%
教科書	適宜、資料を配付する。						
参考書	『和歌山県の謎解き散歩』小山譽城編著（新人物往来社、2012年6月）						
課題・試験等のフィードバック	小テストをした後は授業の中で解答を検討する。						
予習・復習の内容と時間	次の講義への準備をする。60分 配布された資料等をまとめ、学習内容を復習する。180分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
KLI-O-L-2	紀の国の文学	平松正昭	2	講義	全科	後期	選択
授業の概要とキーワード	詩歌・俳諧・小説・説話等の文学作品を和歌山県を中心に古代から近現代に至るまで時代順に鑑賞するとともに、それら作品の舞台となった文化・歴史・風土及び地域環境の理解を深める。授業では様々な資料を使って説明する。【作品、歴史、文化、風土】						
実務経験と教授内容	高校国語教員、教育行政等の経験を生かし、授業を通して、郷土和歌山に対して一層の親近性、愛着、誇る心を養う。			アクティブラーニング	フィールドワーク		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	和歌山県の特徴的な文学的風土や背景等を理解することができる。						
○ 思考・判断	和歌山県を自然や歴史及びその他の関係事項に関連付けて理解することができる。						
△ 態度・志向	学習意欲を持って積極的に授業に取り組むことができる。						
△ 態度・志向	地域の伝統行事、歴史的事実、自然環境に関心を持つことができる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	オリエンテーション 授業の進め方や全体の概要、評価等についての説明		8	松尾芭蕉、与謝蕪村等の近世の俳人と和歌山との関連について学習する			
2	「古事記」「日本書紀」等に登場する和歌山について学習する		9	和歌山に關係する民話、伝統、昔話、縁起物等について学習する			
3	万葉集①:万葉集の中に多く詠まれたいわゆる「紀伊万葉」について学習する		10	明治以降の文学における和歌山 ① 夏目漱石と和歌山を中心に			
4	万葉集②「紀伊万葉」故知の探求、和歌浦、有間皇子等について学習する		11	明治以降の文学における和歌山 ② 佐藤春夫を中心に			
5	平家物語①:平家物語の概要と物語に描かれた和歌山について学習する		12	昭和の文学における和歌山 有吉佐和子の文学を中心に			
6	平家物語②:平家物語に登場する人物(平維盛等)や熊野信仰、高野山等関連事項について学習する		13	和歌山県出身の作家及び和歌山を描いた作品について			
7	和歌山出身と言われる西行の歌や業績、足跡等について学習する		14	① 文学作品の中の和歌山方言とその考察 ② 「紀の国の文学」のまとめ			
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	目標とする授業内容を十分に理解し知識として習得できたか				50%
		思考・判断					30%
	平常点	態度・志向	学習意欲を持ち、積極的に真面目な受講態度で学習できていたか				10%
課題	態度・志向	授業内容をさらに深めるためのレポート作成に積極的に取り組めたか				10%	
教科書	使用しない。その都度資料を配付する。						
参考書	「ふるさとの万葉故知に遊ぶ」(紀伊万葉ネットワーク)、「わかやま発見」(和歌山県教育委員会)						
課題・試験等のフィードバック	事前に示した各授業の予習項目について、調べてきたものを点検するとともにその発表を授業に生かす。冬休みには特別レポートを課す。期末試験終了後、模範解答を配布する。						
予習・復習の内容と時間	各授業の予習項目(下調べ)を事前に予告するので、図書館やネット検索等で調べて授業に臨むこと。240分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
KEE-0-L-2	紀の国の自然	芝田 史仁	2	講義	全科	後期	選択
授業の概要とキーワード	和歌山の風土を形作る大地と気象、生物について概説する。さらに、そこに住む人々の生活と自然との関わりについて、調査学習を通じて理解を促すとともに、地震や津波、台風などの被害にも言及し、防災意識の向上を図る。【自然、防災、地域学修】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	調査学習		
				地域の学修	○		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	和歌山の風土を形成する自然の特徴と人々の生活との関わりについて理解している。						
○ 思考・判断	地域課題を理解し、解決に向けて主体的に取り組むことができる。						
△ 態度・志向	授業に意欲的に取り組むことが出来る。						
△ 態度・志向	地域の一員としての自覚を持ち、地域をより良くしようとする態度を身に付けている。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション 和歌山の風土	8	和歌山の動物(脊椎動物)				
2	和歌山の大地	9	和歌山県の稀少生物とレッドデータブック				
3	地震・津波と防災	10	和歌山県の外来種問題				
4	和歌山の気象	11	和歌山の自然と生活 (テーマ決定)				
5	和歌山の海と生きもの	12	和歌山の自然と生活 I (調査学習) 自分が住んでいる地域の風土を調べてみよう				
6	和歌山の植物	13	和歌山の自然と生活 II 発表(河川流域・沿岸部)				
7	和歌山の動物(無脊椎動物)	14	和歌山の自然と生活 III 発表(山間部) まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	和歌山の自然の特徴と人々の暮らしとの関わりについて理解しているか				50%
		思考・判断	調査学習を通じて地域課題を理解し、適切な解決策を提案できるか				30%
	平 常 点	態度・志向	毎回の授業に積極的に参加できているか				10%
	そ の 他	態度・志向	自分の生活する地域の理解のために、意欲的に取り組んでいるか				10%
教 科 書	特になし。毎回資料を配付する。						
参 考 書	『ふるさと教育副読本 和歌山発見』 和歌山県教育委員会						
課題・試験等のフィードバック	毎回、授業の最後にリアクションペーパーを配布し、学生が記入する時間を設ける。記載された質問に対し、次回の授業の初めに回答する。						
予習・復習の内容と時間	予習:配布された資料を事前に読んでおくこと。60分 復習:授業内容を振り返り、ノートにまとめておくこと。180分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	質問や相談は、昼休み時間、研究室(1414)で対応。事前に予約することが望ましい。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
KCS-O-L-2	地域子育て・子育て支援論	阪田由美子	2	講義	生文 食物	後期	選択
授業の概要と キーワード	<p>本科目は、和歌山県を中心とした地域の子育て・子育て支援について解説し、専門的知識を身につけて地域貢献ができる人材育成を目指す。厚生労働省が参考として示すファミリー・サポート・センターの提供会員への講習と同等の内容を満たしている授業である(和歌山県福祉保健部認定)。 【ファミリーサポート 子育て支援員 ワンオペ育児 アウェイ育児 保育の無償化】</p>						
実務経験と 教授内容	<p>地域の子育て支援経験者が子育て・子育て支援の現状を教授する。(ゲストスピーカーも含む)</p>			アクティブラーニング	フィールドワーク		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知識、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	和歌山を中心とした子育て・子育ての現状や和歌山の資源を理解する。						
○ 思考・判断	地域の子育て課題について考察することができ、意欲が芽生える。						
△ 態度・志向	積極的に授業に取り組むことができ、実務につながるイメージができる。						
△ 態度・志向	社会からの期待を感じ取り将来に向けての自覚が芽生える。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	オリエンテーション・保育のこころ・子どもの遊び I	8	安全と事故対応(応急処置)				
2	子育てをめぐる現状と課題について 子育て支援施設見学	9	安全と事故対応対策				
3	子どもの健やかな発達について 親子ふれあい体験	10	子どもの世話 講義と実践。:				
4	子どもの発達と発達障がい 親子ふれあい体験	11	子どもの栄養と食生活(子どもの発達段階に応じた摂食機能の発達)				
5	子どもの豊かな育ちのための保護者支援 親子ふれあい体験	12	子どもの栄養と食生活(子どもの食物アレルギー)				
6	子どもの病気(感染する病気・急を要する病気) 病院への受診について	13	子どもの遊び 実践				
7	子どもの看護のポイントと家庭での工夫	14	和歌山の子育てと未来				
評価方法 と 基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解 思考・判断	和歌山の子育て・子育て・環境や資源を理解しているか。 問題解決の適切な対処法・選択・判断できるか。				30% 20%
	課題	知識・理解	子育て支援施設を見学し、をレポート作成できるか。				30%
	平常点	態度・志向	積極的に授業に取り組むことができたか。				10%
	その他	態度・志向	社会からの期待を感じ取り将来に向けて自覚や責任感が芽生えたか。				10%
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書	「子育て支援の環境づくり」高山静子著/エイデル研究所「育つ・つながる子育て支援」高山静子他著/チャイルド本社・「子ども子育て新制度活用・改善ハンドブック」石原剛志他著/保育研究所						
課題・試験等の フィードバック	課題についての具体例を授業中に提案する。課題は次の授業でコメントをつけて返却する。期末試験終了後、模範解答を配布する。						
予習・復習の 内容と時間	自主的に学内子育て支援施設または地域資源(子育て関連)に興味を持ち、見学すること。見学してわからないこと、気づいたことを調べ、授業後で質問できるようにする。240分						
免許・資格	子育て・子育てサポーター認定資格必修科目						
受講要件等	地域の子育て支援や地域貢献に興味をもっている、または知りたいと思っている。						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
ARM-5-L-2	音楽	仲谷徹子	2	講義	保育	後期	選択
授業の概要とキーワード	「宗教音楽」に観点を置き、音楽史における祈りの音楽や、オルガン曲、ミサ曲、オラトリオ、西洋音楽に触れる。また、「聖歌」や楽曲、楽器などの解説や映像を通して、合唱、鑑賞、伴奏アレンジ等様々なアプローチにより、幅広い知識と教養を高める。【祈りの音楽 歌のこころ 幼児に向けて】						
実務経験と教授内容	小・中・高等学校・短期大学での勤務経験を活かし、音楽へ向ける知識や教養を高める授業を行う。			アクティブラーニング	ディスカッション		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	宗教音楽に触れ、祈りの心や音楽史における宗教音楽の位置づけを学ぶことができる。						
○ 態度・志向	各楽曲について基礎的な知識を習得する。						
△ 態度・志向	幼児音楽について理解し、考察することができる。						
△ 態度・志向	音楽全般について意欲的に考える知識が身についている。						
回	授業のテーマ及び内容					各回 100分	
1	オリエンテーション ・「祈り」の音楽 宗教音楽について			8	・ミュージカル・オペラ・バレエ音楽について ・「サウンドオブミュージックの音楽」他		
2	・季節を感じて歌う(歌詞の内容と表現) ・身近なピアノ曲「ブルグミュラーの25の練習曲」			9	・ミュージカル・オペラ・バレエの鑑賞		
3	・合唱でハーモニーを楽しむ ・日本における西洋音楽のはじまりと音楽教育			10	・ミサ曲、レクイエム、宗教曲の鑑賞		
4	・様々な音階 グレゴリオ聖歌から西洋音階と日本音階について			11	・クリスマスと聖歌 「アヴェマリア」の曲について		
5	・音楽療法・リミックなどについて ・グループワークで体験しよう			12	・クリスマスソングを歌う ・「きよしこの夜」他		
6	・伴奏楽譜を作る グループワークでアレンジに挑戦			13	・世界の子守歌・日本の子守唄に親しむ ・「五木の子守歌」、和歌山の「子守歌」の分析		
7	・身の回りに溢れる音楽について ・楽器を知ろう「パイプオルガン」他			14	・まとめ ・障害児教育について		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	課題	知識・理解	課題・小テストにおいて論理的に考察を展開できるか 適切な文章表現を用いて、レポートを作成できるか				60%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうという姿勢が身についているか				20%
	その他	態度・志向	グループワークの場において、関りを持ちながら考察することができるか				20%
教科書	歌はともだち 教育芸術社、 賛美の歌						
参考書	グレゴリオ聖歌(水嶋良雄著 音楽之友社出版) 日本童謡辞典(上笙一郎編 東京堂出版) 西洋音楽史(柴田 南雄著 音楽之友社出版)						
課題・試験等のフィードバック	講義の終わりに小レポートを書く時間を設ける。次回の授業でコメントをつけて返却する。						
予習・復習の内容と時間	前回のノートを見直す 240分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	質問があれば、研究日以外の昼休みに直接研究室へ						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
PUL-1-L-1	日本国憲法	伊藤 宏	2	講義	生文	前期	選択
授業の概要とキーワード	日本国憲法は国の最高法規であって、全ての国民が本来は知っていなければならない法律である。この講義では、ゴジラ映画などを用いつつ、各条文に定められた内容を自らの暮らし、社会活動に結びつけて学んでいく。 【基本的人権、女性の権利、労働者の権利、平和主義、民主主義】						
実務経験と教授内容	新聞記者・フリーランス記者・ミニコミ発行の経験のある担当教員が憲法に関わる具体的な社会現象を解説。			アクティブラーニング	調査学習		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP2】 専門的知識・理解						
学修成果の領域		学生の到達目標					
◎	知識・理解	日本国憲法と日常生活、社会生活との関連付けができるようになる。					
○	知識・理解	日本国憲法の各条文の内容と、社会の仕組みについて理解できる。					
△	態度・志向	遅刻や無断欠席をせず、課題をきちんとこなすことができる。					
△	態度・志向	日本国憲法で示された社会的責任について自覚できる。					
回	授業のテーマ及び内容			各回 100 分			
1	はじめに 私たちの暮らしと憲法	8	国民主権と民主主義② 三権分立と日本の政治				
2	日本国憲法の前文 ゴジラで考える憲法が目指す国家・社会	9	国民主権と民主主義③ 憲法と地方自治				
3	国の最高法規が意味すること 憲法と他の法律との関連	10	社会問題と憲法 ゴジラで考える環境問題				
4	基本的人権の尊重① 憲法と私たちの権利・義務	11	憲法と労働問題 働く人々の権利				
5	基本的人権の尊重② ゴジラで考える女性、マイノリティ	12	憲法と税金 私たちが果たすべき義務				
6	基本的人権の尊重③ 憲法と私たちの幸せ	13	平和主義が目指すもの ゴジラと平和・自衛隊				
7	国民主権と民主主義① 民主主義とは何か（選挙の意義）	14	まとめ ゴジラ VS シン・ゴジラ（改憲の議論）				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解	授業の内容を踏まえて憲法に関連して自身の考えを述べることができるか。				60%
	課 題	知識・理解	与えられた社会的課題についての的確な考察をして回答ができるか。				20%
	平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか。				20%
教科書	谷口真由美『日本国憲法・大阪おばちゃん語訳』文藝春秋						
参考書	奥平康弘『いかそう日本国憲法』岩波ジュニア新書						
課題・試験等のフィードバック	次回の授業で、提出された課題の内容についてコメントする。						
予習・復習の内容と時間	配布されたプリントならびに授業ノートの内容について十分に復習すること。240 分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	事前に予約を受けた上で 1207(入試部長室)もしくは 1504(研究室)で質問等に対応する。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LJ-1-L2	日本語演習	山本 桂子	2	演習	生文	通年 (前期)	選択
授業の概要と キーワード	前期では日本語を書く、話す、伝えるという3つの要素を学び、様々な場面での言葉遣いの習得を目指す。後期ではレポート、論文の書き方の基本的な知識とスキル学ぶほか、自己PR文の書き方など就職活動に必要な文章の書き方のレクチャーも行う。【日本語基礎、文章力、就職対策】						
実務経験と 教授内容	一般企業でのビジネス文書作成指導、求職者への履歴書作成支援経験を持つ教員が授業を担当。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理感、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	日本語表現の基本的知識と、レポート、論文の基本的な書き方を習得する						
○ 技能・表現	自身の考えが相手に伝わる日本語表現ができる						
△ 思考・判断	物事を筋道立てて考えられ、より良い方向性を導き出すことができる						
△ 態度・志向	学んだ知識を基にして、さらに多くの学びを自主的に行える						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	オリエンテーション 授業の進め方と日本語学習の意義について	8	話す力を伸ばす(2) 敬語の知識をつける				
2	書く力を伸ばす(1) 漢字の使い方と句読点のはたらきを知る	9	話す力を伸ばす(3) 敬語の使い方をマスターする				
3	書く力を伸ばす(2) 言葉のグループを考える	10	伝える力を伸ばす(1) 話の聞き方を知る				
4	書く力を伸ばす(3) 推敲の重要性を知る	11	伝える力を伸ばす(2) わかりやすく伝える方法を知る				
5	書く力を伸ばす(4) 場面に合った表現をする	12	伝える力を伸ばす(3) 言葉の意味や根拠の調べ方を知る				
6	書く力を伸ばす(5) 手紙の書き方を知る	13	伝える力を伸ばす(4) 表やグラフの使い方を知る				
7	話す力を伸ばす(1) 挨拶と自己紹介の仕方を知る	14	前期の振り返り				

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LJ-1-L-2	日本語演習	山本 桂子	2	演習	生文	通年 (後期)	選択
回	授 業 の テ ー マ 及 び 内 容	各回 100 分					
15	前期の復習 レポート・論文とは何か	22	履歴書・エントリーシートの作成				
16	レポート・論文の基礎(1) 「引用」、「参考文献リスト」とは何かを知る	23	面接での自己表現、伝わる話し方				
17	レポート・論文の基礎(2) レポート、論文の種類と体裁の整え方	24	レポート・論文の作成(1) 課題発見力をつける				
18	レポート・論文作成の基本スキル(1) 発想力と読解力をつける	25	レポート・論文の作成(2) 情報を入手する				
19	レポート・論文作成の基本スキル(2) 要約力と批判的思考力をつける	26	レポート・論文の作成(3) 考察を深め、骨子を作る				
20	レポート・論文作成の基本スキル(3) 表現力をつける	27	レポート・論文の作成(4) レポートを書く				
21	履歴書・エントリーシートのルール	28	前期、後期の振り返り、まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	知識・理解	正しい日本語を適切に使用し、論理的にレポートを作成できているか				50%
	小 テ ス ト	技能・表現	漢字、敬語、文章構成等、日本語表現の基礎を習得できているか				30%
	平 常 点	思考・判断 態度・志向	グループワークで求められている役割を理解し行動できるか 提出課題に意欲的に取り組んでいるか				10% 10%
教 科 書	1、前期『日本語表現&コミュニケーション 社会を生きるための21のワーク』 石塚修 ほか 共著 実教出版 2、後期『学生のレポート・論文作成トレーニング 改訂版 スキルを学ぶ 21 のワーク』 桑田てるみ ほか 共著 実教出版						
参 考 書	必要に応じて適宜紹介する						
課題・試験等の フィードバック	小テストは採点后解答例とともに返却する。 授業中のグループワークや発表には都度フィードバックを行う。						
予習・復習の 内容と時間	テキストを使用し予習、復習を行うこと。 120 分 授業中に提示された提出課題に取り組むこと。 120 分						
免許・資格	秘書士・上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書)・情報処理士・上級情報処理士 選択必修科目						
受講要件等	「インターンシップ I、II」「キャリアデザイン」と深く関連する内容を含む。						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で対応。別途時間が必要な場合は個別に時間を決め研究室で対応。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
REM-5-L-1	基礎演習	二平京子 桑原徹也 仲谷徹子	2	演習	保育	前期	選択
授業の概要とキーワード	愛の精神に基づく保育者に不可欠な基本的教養の育成に向け、コース制を取って各学生の必要に応える。早期に、基礎的な知識と技能を補強し、保育現場で求められる保育科の教育目標を達成できるように導く。【ピアノレッスン・パソコン操作・文章作法】『複数教員担当方式』						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 思考・判断	自ら問題を見つけ、客観的に分析・整理して結論を導き出す力を養う						
○ 技能・表現	読み書きに必要な基礎的力をつけ、明確な自己表現を可能とする						
△ 態度・志向	他者に耳を傾けつつ、自己の思いや考えを適切に伝える力を培う						
△ 技能・表現	主体的に授業に参加し、各自が必要とする分野の基礎力強化に努める						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	ガイダンス・学内ツアー（図書館・キャリアセンター・パソコン室）テキスト8頁～	8	基礎力強化(3) ピアノ リズム打ち/PC Word 文字入力/文章 話し言葉				
2	学びの技法(テキスト16頁～) ・漢字テスト実施(課題3のプリントより出題)	9	基礎力強化(4) ピアノ 指使いの確認/PCWord 文書作成/文章 様々な文章				
3	レポートを書く(テキスト64頁以降参照) (各自、課題一の作文を持参し、遂行する)	10	基礎力強化(5) ピアノ 右手と歌/PC Word 表/文章 レポートの構成				
4	正しい敬語表現(基礎) 尊敬語・謙譲語・丁寧語について(説明と練習)	11	基礎力強化(6) ピアノ 左手の和音伴奏/ PC Word 文書編集/文章 新聞記事から				
5	敬語表現の練習(応用)よく使う敬語・間違いやすい敬語について(問題プリントの解説)	12	基礎力強化(7) ピアノ 両手/ PCWord お便り作成/文章 スピーチ(励ます言葉)				
6	基礎力強化(1)ピアノ 効果的な練習方法/ パソコン/文章作法 一導入一	13	基礎力強化(8)ピアノ 仕上げ/パソコン/文章作法 一復習一				
7	基礎力強化(2) ピアノ 付点のリズムの理解/PC Word 基礎知識/文章 呼吸・発声	14	まとめ(レポート作成を含む)				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	課題	思考・判断 技能・表現	見出した問題点について考察を深め、客観性のある結論を導く事ができる 情報を適宜取り入れ、筋道立てて結論導き表現する事ができる				50% 20%
	平常点	態度・志向 技能・表現	自分から学び取ろうとする積極的な姿勢が身につけている 必要に応じ、明確な自己表現ができる				10% 10%
	小テスト	技能・表現	目的意識をもって準備し、目標を確実に達成する力身につけている				10%
教科書	『スタートアップセミナー なせば成る!』 なせば成る!編集委員会編 山形大学出版会						
参考書	適宜、資料を授業で配付する 国語辞典を持参する						
課題・試験等のフィードバック	小テスト・提出物に対しては、模範解答の提示、補足説明等の機会をもつ						
予習・復習の内容と時間	予習:『スタートアップセミナー なせば成る!』を読み、重要箇所にマーカーを入れる 120分 復習:授業内容を振り返り、確認テスト等に備える 120分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	該当なし						
オフィスアワー等	授業終了後						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
REM-3-L-1	基礎演習	西出 井上 森岡 野志 堀江	2	演習	食物	前期	選択
授業の概要と キーワード	専門教育科目群の学修に必要な初等的知識を復習しつつ、高等学校までの数学や理科の基礎知識を系統的に学び直します。基礎学力の充実を目指して少人数クラスを編成し、精度の高い学修を実践するため、クラスによって多少進め方が異なります。『クラス分け方式』 【数学基礎、化学基礎、生物学基礎】						
実務経験と 教授内容	該当なし			アクティブラーニング	該当なし		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 知識・理解	基礎知識と基礎学力を着実に獲得している。						
○ 技能・表現	数量的な把握と評価ができる。						
△ 思考・判断	化学的な考え方と推論ができる。						
△ 思考・判断	基礎知識を発展させ、細部まで注意深く、緻密にまとめることができる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	ガイダンス: 初等的な数学や理科を復習し、到達度グループ分けを行う	8	化学 その 4 中級編 ① 化学式について				
2	数学 その 1 基礎編 数・式について	9	化学 その 5 中級編 ② 分子量				
3	数学 その 2 中級編 単位換算と計算	10	化学 その 6 応用編	モル・モル濃度			
4	数学 その 3 応用編 割合・濃度計算	11	生物 その 1 基礎編	植物と動物の細胞			
5	化学 その 1 基礎編 ① 物質・分子・原子	12	生物 その 2 中級編	遺伝情報のしくみ			
6	化学 その 2 基礎編 ② 元素と周期表	13	生物 その 3 応用編	生体の各器官と働き			
7	化学 その 3 基礎編 ③ 溶液の性質や pH	14	まとめ: 専門教育科目群の教科との関連について理解を深める				
評価方法と 基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	知識・理解 技能・表現 思考・判断 思考・判断	専門教育科目群の学修に必要な基礎知識と基礎学力を獲得しているか。 数量的な把握と評価ができるか。 化学的な考え方と推論ができるか。 基礎知識を緻密にまとめることができるか。				40% 10% 10% 10%
小 テ ス ト	知識・理解 技能・表現	専門教育科目群の学修に必要な基礎知識と基礎学力を獲得しているか。 数量的な把握と評価ができるか。				20% 10%	
教 科 書	教科書は授業時に配布する。						
参 考 書	数学、化学、生物の高校教科書						
課題・試験等の フィードバック	各クラスの授業で扱った課題・小テストについては、授業内で各担当者が説明を行う。						
予習・復習の 内容と時間	予習: 数学・化学・生物の高校教科書を読む。120分 復習: 授業の内容を振り返る。120分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	栄養士免許を取得するためには、「基礎演習」又は、「生活科学」の1教科2単位を取得すること。						
オフィスアワー等	授業の中で、各教員から指示する。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
HLS-3-L-2	生活科学	野志昌弘	2	講義	食物	後期	選択
授業の概要とキーワード	専門教科科目群の学修に必要な理数系の基礎知識について講義する。また、受講生が必要となる学修内容を各個人別に確認し、円滑な応用的学修のための基盤形成を目的とする。 【数学基礎、化学基礎、生物学基礎】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	事前学習型授業		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 思考・判断	物事についてしっかりと考えることができ、論理的な思考および推論が可能である。						
○ 知識・理解	理数系の基礎学力が身につけており、自身の知識として活用できる。						
△ 技能・表現	自身の意見を明確に表現することができる。						
△ 態度・志向	自主性と協調性を持って学修に取り組むことができる能力を獲得する。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	ガイダンス:小テストによる自己課題の確認	8	化学②:物性について(液性・酸化還元など)				
2	数学①:式の取り扱い(四則演算・比率・文字式)	9	化学③:計算を伴う化学(化学式・モル・モル濃度)				
3	数学②:数の取り扱い(単位換算・百分率・割合)	10	化学④:課題による自己課題の再確認				
4	数学③:実践的な計算(分数・変換・濃度計算)	11	化学⑤:これまでの振り返り				
5	数学④:課題による自己課題の再確認	12	生物①:人体の機能と構造(細胞・組織・器官など)				
6	数学⑤:これまでの振り返り	13	生物②:人体の機能と構造(代謝・遺伝など)				
7	化学①:物質について(元素・イオン・分子量など)	14	総括:自己課題達成の評価と新たな課題の設定				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	知識・理解	理数系の基礎学力が定着しているか。				30%
		思考・判断	得られた知識が定着しており、それを活用した思考が可能であるか。				20%
	課題	思考・判断	現在の自分に必要な物事を考え、的確に判断し行動することができるか。				30%
技能・表現		自身の学修内容および課題を明確かつ適切に表現することができるか。				10%	
平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身につけているか、また表現できるか。				10%	
教科書	特に指定しない。授業中に適宜資料を配布する。						
参考書	高等学校在学時に使用していた数学および理科系科目の教科書とする。						
課題・試験等のフィードバック	指定の課題に対して、コメントを伴う評価を行う。						
予習・復習の内容と時間	予習・復習:課題を指定する。自身の理解できていない内容が何かを把握する。240 分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	栄養士免許を取得するためには、「基礎演習」又は、「生活科学」の1教科2単位を取得すること。						
オフィスアワー等	事前の予約に応じて、授業終了後に教室などで質問等を受け付ける。						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
BIO-3-L-2	自然と生物	湯浅永一	2	講義	食物	前期	選択
授業の概要とキーワード	私は、皆さんに、生物個体の成り立ちや遺伝の仕組み、免疫をはじめとする恒常性の維持機構など、生物が環境の中でどのように生きており生命が守られているかについて理解してもらいたい。 【遺伝、生物、免疫】						
実務経験と教授内容	高校生物授業経験者が、現在農業経営していることを活かして授業をおこなう。			アクティブラーニング	該当なし		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 思考・判断	自ら生物学に興味を示し、生命の神秘を探求する。						
○ 知識・理解	生物学の基礎を習得し、ヒトを理解する。						
△ 態度・志向	積極的に授業に参加する。						
△ 態度・志向	食物栄養学を通して社会に貢献できる。						
回	授業のテーマ及び内容			各回 100分			
1	イントロダクション:生物学の導入。			8	ES細胞やIPS細胞などの先端技術を学ぶ。(再生医療)		
2	華岡青洲・南方熊楠をはじめとする和歌山県出身の先駆者の仕事について学ぶ。			9	生殖医療について学習する。		
3	生命の基本単位である細胞について学習する。			10	従属栄養生物と独立栄養生物の代謝について学ぶ。		
4	生体の構成成分である核酸とタンパク質、脂質について学ぶ。			11	恒常性の維持(1)体液・肝臓・腎臓		
5	個体の成り立ち、ヒトの組織・器官・器官系について学ぶ。			12	恒常性の維持(2)自律神経とホルモン		
6	ヒトの遺伝:ヒトを中心とした遺伝について学ぶ。			13	感染への防御やアレルギーなど免疫現象について学ぶ。		
7	遺伝情報の発現:DNA上の遺伝情報がどのように個体の性質として表れるかを理解する。			14	環境問題について学習する。		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	思考・判断	生物の成り立ちを考察する。				30%
		知識・理解	主要な器官のはたらきが理解できているか。				30%
	小テスト	思考・判断	毎回の授業が理解できているか。				20%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする姿勢が身についているか。				20%
教科書	使用しない。適宜資料を配布する。						
参考書	高校生物教科書						
課題・試験等のフィードバック	毎回の授業後に小テストをおこない、次回の授業で解説をおこなう。						
予習・復習の内容と時間	予習:次回の授業範囲を高校の教科書で読んでおく。120分 復習:授業内容を振り返り、定期テストに備えてプリント等を見直しておく。120分						
免許・資格	該当なし						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
INF-1-L-1	情報処理論	中西淳平	2	講義	生文	前期	選択
授業の概要とキーワード	我々が日常的に利用しているコンピュータを構成している装置・周辺機器とその動作原理を学ぶ。また、情報の収集と活用、情報機器の安全な取り扱い、ソフトウェアの種類と役割について学ぶ。 【データサイエンス、コンピュータ、中央処理装置、記憶装置、入力装置、出力装置、プログラム、セキュリティ】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	該当なし		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	コンピュータの動作原理を理解し、効果的な活用法が理解できる						
○ 知識・理解	ICT の利点と欠点、情報機器の安全な取り扱いを理解できる						
△ 思考・判断	与えられた課題に応じて情報を収集・活用し、適切に処理・解決できる						
△ 態度・志向	情報モラルが身についている						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション	8	オペレーティングシステム				
2	コンピュータの歴史	9	ファイルシステム				
3	コンピュータの構成	10	アプリケーションソフトウェア				
4	中央処理装置	11	アルゴリズムとデータ構造				
5	記憶装置	12	コンピュータウイルスとセキュリティ				
6	入力装置	13	暗号とセキュリティ				
7	出力装置	14	まとめ				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	技能・表現	コンピュータの動作原理を理解しているか				50%
		思考・判断	与えられた課題に応じて適切に処理・解決できるか				10%
	課 題	知識・理解	ICT の利点と欠点、情報機器の安全な取り扱いを理解しているか				30%
	平 常 点	態度・志向	情報モラルが身についているか				10%
教科書	授業時にプリントを配付する						
参考書	高橋三雄著「パソコンソフト実践活用術」岩波新書						
課題・試験等のフィードバック	課題を次回の授業でコメントをつけて返却する						
予習・復習の内容と時間	予習:教科書(プリント)の次回の授業範囲を読み、授業に備えておく 120 分 復習:授業内容を振り返り、次回の授業に備えておく 120 分						
免許・資格	秘書士・上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書) 選択必修科目 情報処理士・上級情報処理士 必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	毎週金曜日の昼休み						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
INF-1-L-1	情報処理演習	中西淳平	2	演習	生文	後期	選択
授業の概要とキーワード	コンピュータの基本操作とインターネットを利用した情報検索、ビジネス文書の作成、表計算ソフトを使用したデータ処理、プレゼンテーションソフトを利用した発表の基礎技能を学ぶ。また、ワープロと表計算ソフトを活用したレポートの作成方法を学ぶ。 【データサイエンス、コンピュータ、Windows、Word、Excel、PowerPoint】						
実務経験と教授内容	該当なし			アクティブラーニング	実践演習		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理観、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	ICT を活用して情報を適切に処理し、文書作成やデータ処理ができる						
○ 思考・判断	与えられた課題に応じて情報を収集・活用し適切に処理・解決できる						
△ 知識・理解	ICT について理解し、基本的な操作ができる						
△ 態度・志向	情報モラルが身についている						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100 分					
1	オリエンテーション	8	Excel による表の作成				
2	Word による基本文書作成	9	表の編集1:セルの挿入、結合、罫線、色付け				
3	文書の編集1:文字の大きさ、フォントの変更、下線を引く、箇条書き	10	表の編集2:数式(四則演算)、関数(合計、カウント、平均、最大値、最小値)				
4	文書の編集2:網かけ、罫線、余白設定、テキストボックス、Smart Art、画像挿入	11	表の編集3:グラフの作成				
5	ポスターの作成	12	表の編集4:データの並べ替え				
6	リーフレットの作成、縦書きの文書作成	13	PowerPoint の基礎				
7	Word による表の作成	14	まとめ、課題				
評価方法と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	課 題	技能・表現	情報を適切に処理し、文書作成やデータ処理ができるか				50%
		知識・理解	ICT について理解し、基本的な操作ができるか				10%
	平 常 点	思考・判断	与えられた課題に応じて適切に処理・解決できるか				30%
態度・志向		情報モラルが身についているか				10%	
教科書	定平誠著「例題 50＋演習問題 100 でしっかり学ぶ Word/Excel/PowerPoint 標準テキスト Windows10/Office2019 対応版」技術評論社						
参考書	授業時に適宜指示する						
課題・試験等のフィードバック	課題を次回の授業でコメントをつけて解説する						
予習・復習の内容と時間	授業時に課した演習問題を完成させる 120 分 授業内容を振り返り、次回の授業に備えておく 120 分						
免許・資格	秘書士・上級秘書士・上級秘書士(メディカル秘書) 選択必修科目 情報処理士・上級情報処理士 必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	毎週金曜日の昼休み						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LIE-5-L-1	英語 IA	Michael Minik	2	演習	保育	前期 後期	選択
授業の概要と キーワード	基礎文法と英文の構造を学び、正しい発音によるスピーキング、リスニング、日常会話の能力を養い、用語を増やし、自己紹介を書く 【コミュニケーション、発音、スピーキング、リスニング】						
実務経験と 教授内容	幼稚園、中・高、専門学校における英語教育の経験を活かし、基礎的、実用的英語をわかりやすく、正しい発音で教える。			アクティブラーニング	ディスカッション		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理感、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	語彙の増強、聞き取り、会話、問答練習により、英語でコミュニケーションできるようになる。						
○ 知識・理解	文法、語彙の知識を習得し、英語の日常会話が聞き取れ、英文が読み取れるようになる。						
△ 態度・志向	自己管理能力を身につけ、積極的に授業に参加できる。						
△ 態度・志向	社会的な責任感をもって国際社会の一員として判断し、行動できる。						
回	授業のテーマ及び内容					各回 100分	
1	Unit 1: Hello Everybody : Be 動詞、身の物			Unit 3: The World of Work : 時刻と時刻に関する表現			
2	Unit 1: Hello Everybody : 所有形容詞・冠詞、数			9	Unit 3: The World of Work : 肯定文・否定文		
3	Unit 2: Meeting People : 疑問文・否定文、家族			10	中間まとめ Unit 4: Take it Easy : 現在単純時制		
4	Unit 2: Meeting People : 所有格、 / 's / 家族			11	Unit 4: Take it Easy : 曜日、季節、月		
5	Unit 2: Meeting People : (補助教材を用いて) 好き嫌いの表現			12	Unit 4 : Take it Easy : 頻度を表す副詞、余暇活動		
6	Unit 3: The World of Work : 3人称現在時制、職業			13	Unit 4: Take it Easy : 現在進行形		
7	Unit 3: The World of Work : 情報を求める質問、日常の活動			14	Unit 4: Take it Easy : 社交的表現、生活様式		
評価方法 と基準	評価方法	領 域	評 価 の 観 点				割合
	期 末 試 験	技能・表現 知識・理解	英語で基本的なコミュニケーションの語彙と文法を理解し、習得しているか 保育の場で幼児に教える英語の知識を身に付けたか				30% 20%
	課 題	技能・表現	与えられたテーマについて口頭や記述で自己表現できるか				30%
	平 常 点	態度・志向	積極的に学ぼうとする態度が身についているか				10%
	そ の 他	態度・志向	国際社会の一員としての適切な判断や対応ができるか				10%
教 科 書	Liz & Joan Soars 著『 American Headway 1 』 Oxford University Press						
参 考 書	特になし						
課題・試験等の フィードバック	課題(小テスト)はコメントをつけて返却し、次回の授業で解答し、問題点を説明する。						
予習・復習の 内容と時間	週に4時間程度予習と復習をし、学生用CD使用可能な部分を聞いておくこと。						
免許・資格	幼稚園教諭2種免許状選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	各授業前の1時間 教室で質問や相談を受ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LIE-1-L-1	英語 IA	Michael Minik	2	演習	生文	前期	選択
授業の概要とキーワード	基礎文法と英文の構造を学び、正しい発音によるスピーキング、リスニング、日常会話の能力を養い、用語を増やし、自己紹介を書く 【コミュニケーション、発音、スピーキング、リスニング】						
実務経験と教授内容	幼稚園、中・高、専門学校における英語教育の経験を活かし、基礎的、実用的英語をわかりやすく、正しい発音で教える。	アクティブラーニング	ディスカッション				
		地域の学修	該当なし				
関連する DP	【DP1】 キリスト教的倫理感、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	語彙の増強、聞き取り、会話、問答練習により、英語でコミュニケーションできるようになる。						
○ 知識・理解	文法、語彙の知識を習得し、英語の日常会話が聞き取れ、英文が読み取れるようになる。						
△ 態度・志向	自己管理能力を身につけ、積極的に授業に参加できる。						
△ 態度・志向	社会的な責任感をもって国際社会の一員として判断し、行動できる。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	Unit 1: Hello Everybody : Be 動詞、身の物	Unit 3: The World of Work : 時刻と時刻に関する表現					
2	Unit 1: Hello Everybody : 所有形容詞・冠詞、数	9	Unit 3: The World of Work : 肯定文・否定文				
3	Unit 2: Meeting People : 疑問文・否定文、家族	10	中間まとめ Unit 4: Take it Easy : 現在単純時制				
4	Unit 2: Meeting People : 所有格、 / 's /、家族	11	Unit 4: Take it Easy : 曜日、季節、月				
5	Unit 2: Meeting People : (補助教材を用いて) 好き嫌いの表現	12	Unit 4 : Take it Easy : 頻度を表す副詞、余暇活動				
6	Unit 3: The World of Work : 3人称現在時制、職業	13	Unit 4: Take it Easy : 現在進行形				
7	Unit 3: The World of Work : 情報を求める質問、日常の活動	14	Unit 4: Take it Easy : 社交的表現、生活様式				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	英語で基本的なコミュニケーションをするための語彙と文法を理解し、習得しているか				30%
		知識・理解					20%
	課題	技能・表現	与えられたテーマについて口頭や記述で自己表現できるか				30%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする態度が身についているか				10%
その他	態度・志向	国際社会の一員としての適切な判断や対応ができるか				10%	
教科書	Liz & Joan Soars 著 『 American Headway 1 』 Oxford University Press						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	課題(小テスト)はコメントをつけて返却し、次回の授業で解答し、問題点を説明する。						
予習・復習の内容と時間	週に4時間程度予習と復習をし、学生用 CD 使用可能な部分を聞いておくこと。						
免許・資格	秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書) 選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	各授業前の1時間 教室で質問や相談を受ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LIE-3-L-1	英語 IA	Michael Minik	2	演習	食物	前期	選択
授業の概要とキーワード	基礎文法と英文の構造を学び、正しい発音によるスピーキング、リスニング、日常会話の能力を養い、用語を増やし、自己紹介を書く 【コミュニケーション、発音、スピーキング、リスニング】						
実務経験と教授内容	幼稚園、中・高、専門学校における英語教育の経験を活かし、基礎的、実用的英語をわかりやすく、正しい発音で教える。	アクティブラーニング	ディスカッション				
		地域の学修	該当なし				
関連する DP	【DP1】 キリスト教的倫理感、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎	技能・表現	語彙の増強、聞き取り、会話、問答練習により、英語でコミュニケーションできるようになる。					
○	知識・理解	文法、語彙の知識を習得し、英語の日常会話聞き取り、英文が読み取れるようになる。					
△	態度・志向	自己管理能力を身につけ、積極的に授業に参加できる。					
△	態度・志向	社会的な責任感をもって国際社会の一員として判断し、行動できる。					
回	授業のテーマ及び内容					各回 100分	
1	Unit 1: Hello Everybody : Be 動詞、身の物			Unit 3: The World of Work : 時刻と時刻に関する表現			
2	Unit 1: Hello Everybody : 所有形容詞・冠詞、数		9	Unit 3: The World of Work : 肯定文・否定文			
3	Unit 2: Meeting People : 疑問文・否定文、家族		10	中間まとめ Unit 4: Take it Easy : 現在単純時制			
4	Unit 2: Meeting People : 所有格、 / 's /、家族		11	Unit 4: Take it Easy : 曜日、季節、月			
5	Unit 2: Meeting People : (補助教材を用いて) 好き嫌いの表現		12	Unit 4 : Take it Easy : 頻度を表す副詞、余暇活動			
6	Unit 3: The World of Work : 3人称現在時制、職業		13	Unit 4: Take it Easy : 現在進行形			
7	Unit 3: The World of Work : 情報を求める質問、日常の活動		14	Unit 4: Take it Easy : 社交的表現、生活様式			
評価方法と基準	評価方法	領 域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	英語で基本的なコミュニケーションをするための語彙と文法を理解し、習				30%
		知識・理解	得しているか				20%
	課題	技能・表現	与えられたテーマについて口頭や記述で自己表現できるか				30%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする態度が身についているか				10%
その他	態度・志向	国際社会の一員としての適切な判断や対応ができるか				10%	
教科書	Liz & Joan Soars 著 『 American Headway 1 』 Oxford University Press						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	課題(小テスト)はコメントをつけて返却し、次回の授業で解答し、問題点を説明する。						
予習・復習の内容と時間	週に4時間程度予習と復習をし、学生用 CD 使用可能な部分を聞いておくこと						
免許・資格	医療秘書実務士選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	各授業前の1時間 教室で質問や相談を受ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LIE-1-L-1	英語 I B	David Edward Hilston	2	演習	生文	前期	選択
授業の概要とキーワード	様々なパラグラフ作文を読んで構造を理解した上自作を書く。作文に関する質問に答えながら基本の文法や単語を増やす。【キーワード コミュニケーション リスニング、ライティング】						
実務経験と教授内容	自分の英語スクールでの実務経験を活かして総合的な英語授業を提供する。	アクティブラーニング	グループワーク				
		地域の学修	該当なし				
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理感、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	人に伝えたいことが伝えられる。						
○ 知識・理解	基本文法と単語を身に付ける。						
△ 態度・志向	本気に基本練習を繰り返す。気づく力を出す。						
△ 態度・志向	英語で他人と絆を作って社会をより深く理解する。						
回	授業のテーマ及び内容	各回 100分					
1	授業の説明、作文の書き方や答え方などを教える。Unit 1 を始まる。	8	Unit 4 Pastimes and Hobbies 続き 作文や例文を使って練習する。				
2	Unit 1 Self-introduction、作文や例文を使って練習する。	9	Unit 5 Weekends 作文を読み、自作を書く。				
3	Unit 2 My College 作文を読み、自作を書く。	10	Unit 5 Weekends 続き 作文や例文を使って練習する。				
4	Unit 2 My College 続き 作文や例文を使って練習する。	11	Unit 6 Friends 作文を読み、自作を書く。				
5	Unit 3 Family and Hometown 作文を読み、自作を書く。	12	Unit 6 Friends 続き 作文や例文を使って練習する。				
6	Unit 3 Family and Hometown 続き 作文や例文を使って練習する	13	Unit 7 High School Days 作文を読み、自作を書く。				
7	Unit 4 Pastimes and Hobbies 作文を読み、自作を書く。	14	Unit 7 High School Days 続き 作文や例文を使って練習する。				
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	教科書の内容が理解できているかどうか確認する。				25%
		知識・理解	文法と単語が身についているか				20%
	課題等	技能・表現	英語の基本のスキルが出来るように課題等をさせる。				35%
	平常点	態度・志向	グループワークが積極的にできるかどうか評価する。				20%
教科書	宮田 学 / Joseph Stavoy 著「Can't Stop Writing」(revised) 株式会社三修社						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	常に授業中の対応をする。						
予習・復習の内容と時間	次回の作文を読んで理解すること。 240分						
免許・資格	秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)選択必修科目						
受講要件等	該当なし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LIE-3-L-1	英語 I B	David Edward Hilston	2	演習	食物	前期	選択
授業の概要とキーワード	様々なパラグラフ作文を読んで構造を理解した上自作を書く。作文に関する質問に答えながら基本の文法や単語を増やす。【キーワード コミュニケーション リスニング、ライティング】						
実務経験と教授内容	自分の英語スクールでの実務経験を活かして総合的な英語授業を提供する。			アクティブラーニング	グループワーク		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理感、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	人に伝えたいことが伝えられる。						
○ 知識・理解	基本文法と単語を身に付ける。						
△ 態度・志向	本気に基本練習を繰り返す。気づく力を出す。						
△ 態度・志向	英語で他人と絆を作って社会をより深く理解する。						
回	授業のテーマ及び内容					各回 100分	
1	授業の説明、作文の書き方や答え方などを教える。Unit 1 を始まる。		8	Unit 4 Pastimes and Hobbies 続き 作文や例文を使って練習する。			
2	Unit 1 Self-introduction、作文や例文を使って練習する。		9	Unit 5 Weekends 作文を読み、自作を書く。			
3	Unit 2 My College 作文を読み、自作を書く。		10	Unit 5 Weekends 続き 作文や例文を使って練習する。			
4	Unit 2 My College 続き 作文や例文を使って練習する。		11	Unit 6 Friends 作文を読み、自作を書く。			
5	Unit 3 Family and Hometown 作文を読み、自作を書く。		12	Unit 6 Friends 続き 作文や例文を使って練習する。			
6	Unit 3 Family and Hometown 続き 作文や例文を使って練習する		13	Unit 7 High School Days 作文を読み、自作を書く。			
7	Unit 4 Pastimes and Hobbies 作文を読み、自作を書く。		14	Unit 7 High School Days 続き 作文や例文を使って練習する。			
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現	教科書の内容が理解できているかどうか確認する。				25%
		知識・理解	文法と単語が身についているか				20%
	課題等	技能・表現	英語の基本のスキルが出来るように課題等をさせる。				35%
	平常点	態度・志向	グループワークが積極的にできるかどうか評価する。				20%
教科書	宮田 学 / Joseph Stavoy 著「Can't Stop Writing」(revised) 株式会社三修社						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	常に授業中の対応をする。						
予習・復習の内容と時間	次回の作文を読んで理解すること。 240分						
免許・資格	医療秘書実務士選択必修科目						
受講要件等	該当なし						
オフィスアワー等	授業終了後に教室で質問を受け付ける						

科目コード	科目名	担当者	単位	種別	科専攻	開講期	必・選
LIE-1-L-2	英語Ⅱ	Michael Minik	2	演習	生文	後期	選択
授業の概要とキーワード	基礎文法と英文の構造を学び、正しい発音によるスピーキング、リスニング、日常会話の能力を養い、用語を増やす。人の外見を語る際の適切な英語表現を学ぶ。【コミュニケーション、発音、スピーキング、リスニング】						
実務経験と教授内容	幼稚園、中・高、専門学校における英語教育の経験を活かし、基礎的、実用的英語をわかりやすく、正しい発音で教える。			アクティブラーニング	ディスカッション		
				地域の学修	該当なし		
関連する DP	【DP1】キリスト教的倫理感、教養・知性、汎用的技能						
学修成果の領域	学生の到達目標						
◎ 技能・表現	語彙の増強、聞き取り、会話、問答練習で英語でコミュニケーションができるようになる。						
○ 知識・理解	文法、語彙の知識を習得し、英語の日常会話が聞き取れ、英文が読み取れるようになる。						
△ 態度・志向	自己管理能力を身につけ、積極的に授業に参加できる。						
△ 態度・志向	社会的な責任感をもって国際社会の一員として判断し、行動できる。						
回	授業のテーマ及び内容					各回 100分	
1	Unit 5: Where Do You Live? : There is/are, some/any, these/those, 方角			中間まとめ、Unit 8: A Date to Remember : ago/since, 過去時制2、否定語、冠婚葬祭			
2	Unit 5: Where Do You Live? : some/any, man, 時に関する前置詞			9	Unit 8: A Date to Remember : 異文化現象、時間的表現		
3	Unit 5: Where Do You Live? : and /so/but/because 自分の住所の説明			10	Unit 9: Food You Like : I like/I'd like, 加算/不可算名詞、丁寧な要望表現		
4	Unit 6: Can You Speak English? : can/can't, was/were, 電話、活動、能力			11	Unit 9: Food You Like : much/many, few/a few, little/a little		
5	Unit 6: Can You Speak English? : Homophones 同音異義語			12	Unit 9: Food You Like : 世界の食物、食物についての質問		
6	Unit 7: Then and Now : 過去分詞、規則/不規則動詞、日付			13	Unit 10: Looking Good : although/ but, 現在の継続表現、衣料品店でスタイルについて		
7	Unit 7: Then and Now : Collocation 連語、過去形を使う質問			14	Unit 10: Looking Good : agreeing/disagreeing, 感情の表現		
評価方法と基準	評価方法	領域	評価の観点				割合
	期末試験	技能・表現 知識・理解	英語で基本的なコミュニケーションをするための語彙と文法を理解し、習得しているか				30% 20%
	課題	技能・表現	与えられたテーマについて口頭や記述で自己表現できるか				30%
	平常点	態度・志向	積極的に学ぼうとする態度が身についているか				10%
	その他	態度・志向	国際社会の一員としての適切な判断や対応ができるか				10%
教科書	Liz & Joan Soars 著『 American Headway 1 』 Oxford University Press						
参考書	特になし						
課題・試験等のフィードバック	課題(小テスト)はコメントをつけて返却し、次回の授業で解答し、問題点を説明する。						
予習・復習の内容と時間	週に4時間程度予習と復習をし、学生用CD使用可能な部分を聞いておくこと						
免許・資格	秘書士、上級秘書士、上級秘書士(メディカル秘書)選択必修科目						
受講要件等	特になし						
オフィスアワー等	各授業前の1時間 教室で質問や相談を受ける						